View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

創刊にあたって

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科（RBS）は，社会人のための MBA コースとして 2002 年に開設されました。その目的はビジネスクリエーターと称する「真のゼネラリスト」ないし「ゼネラリストのスペシャリスト」の養成です。RBS の目指す「ゼネラリスト」は，専門化した各職能（機能）を有機的に結合し，創造的な意思決定を行う人材を指します。各機能は高度に専門化を進め，各機能間は互いの関連性を見失いがちです。そのため，RBS の教育目標は，各職能を鳥瞰できる幅広い視野の形成が必要でした。

しかしながら，知識の深耕なしに知識のすそ野を広げることは危険です。教育機関としては，真理を探究しつつ，すそ野を広げることが求められます。そこで，RBS では MBA コースに加え，2007 年に DBA コース（博士課程後期課程）を設置し，実務と研究を融合した高度専門職業人の育成を目指すことになりました。

実務型教育は，企業経営の本質や真理を追求することで経営行動の原理を手に入れることができます。経営学が科学である限り，行動原理は反証され，再び新たな行動原理を追い求めねばなりません。経営の真理や本質の探究に真摯に向かい合い，研究を継続することこそが高度専門職業人に求められる姿勢なのです。

経営に関する高度専門職業人は，経営者のみならず官僚やコンサルタント，会計士や税理士，弁護士，医師や看護師，そして大学やその他の研究機関の研究者など，多様な領域で活躍する人々です。DBA は，彼ら／彼女らの知的探究心を支援するために設置された大学院です。

しかしながら，研究は，知識の交換の「場」が必要です。「場」を提供することは，教育機関の使命になります。今回，私どもは，『立教 DBA ジャーナル』を刊行し，研究情報を交換する「場」を提供することにしました。創刊号は，並木伸晃教授（博士課程後期課程主任）が編集委員長に就き，依頼論文２本と査読論文２本で価値ある「場」の提供に成功したと信じます。並木教授には，外部専門家による査読ルールなど，ジャーナルの価値を高めるための厳格な制度設計を構築してもらいました。このジャーナルの提供する知識創造が，社会発展に貢献することを祈念しています。

ビジネスデザイン研究科委員長
亀川雅人